

「赤塚ため池の龍神様」

戦の続いた落ち着きのない時代、今の群馬県（上野国（こうずけのくに））にお城をかまえていた侍がおりました。

この侍は大変信仰心が厚く、その城下の沼にお祀りしてある龍神様を深く信仰していたと言います。

ところが、この龍神様その分身をはるばる遠い板橋の赤塚に差し向けられ、赤塚城下の水堀、今のため池公園の池の底に、ひそかに住まわれていたそうです。

この池に龍神様がおられるのを初めて知らされたのは、群馬県に住んでいて龍神様を深く信仰している人たちが数人で上京し、ため池のふちで、お祭りをしていたことで、はじめて分かりました。

この人たちは、口ぐちにこう話していました。

「私たちは、むかしから代々龍神様を信仰しておりますが、数日前から龍神様が、毎夜のように私たちの枕元に立たれまして、

『自分は、ここ「群馬県」の龍神の分身ですが、今は東京都板橋区の赤塚にあるため池に住んでおりますが、ふとしたはずみで、胸の上に大石を投げ込まれ、いま、ひん死のありさまに置かれております。どうか大至急、池の端で供養して助けてください。』とおっしゃるのです。

このお告げに驚いた信者さんたち、さっそく、お供えの品を整えて上京、ため池の柳の大木の木陰にお供え物を並べ、御祈りの式をあげ、この式を終えました。

龍神様は胸に乗っていた石が取り除かれ、元気になりました。